



関係機関と連携した災害対応訓練



奈良市消防団団長
川崎 政信

1 はじめに

奈良市消防団は平成27年2月9日、DMAT(ディーマット:災害派遣医療チーム)、DPAT(ディーパット:災害派遣精神医療チーム)と合同訓練を奈良ロイヤルホテル(奈良市法華寺町)で実施しました。

この訓練は、奈良市における局所災害(大地震)を想定し、消防団による被災者の避難誘導、避難所での傷病者や精神科医療を必要とする被災者への初動対応処置ができる体制を確立することを目的に実施しました。

これまで、他の地方公共団体でも同一の総合防災訓練等に消防団、DMAT及びDPATが参加し、それぞれ個別に訓練活動する例はありましたが、今回の訓練は、実際の災害時に地域の防災・減災の中核を担う消防団が、医療の専門チームであるDMAT、DPATとの連携訓練を実施することにより、地域防災力の強化、災害時における、よりスムーズな救援・救護体制の構築を図ることが期待されます。

2 訓練実施の経緯

奈良市では、平成25年12月13日に公布された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」により、消防団を中核とした地域防災力の強化に取り組んでいるところです。

その取組の一つとして、平成26年7月には消防団員を対象にWHO版の心理的応急処置「サイコロジカルファーストエイド(PFA)」の研修を受講し、専門家以外でもで

きる心理的応急処置を習得しました。災害時には、それぞれの機関が単独では機能することが難しく、消防関係機関、医療関係、行政等が連携を強化することが重要です。そこで、平時に「顔の見える関係づくり」をしていることが必要と考え、奈良市では今回の「奈良市消防団、DMAT、DPAT合同訓練」を実施することを決めました。

3 被災想定および参加者

今回の合同訓練では、「平成27年2月9日(月)午後3時10分、奈良盆地東縁断層帯を震源とする内陸型地震が発生、地震規模はマグニチュード7.0で震源の深さは約10km、奈良市内で震度6強を観測、甚大な被害が発生した」との想定で実施しました。

合同訓練では奈良ロイヤルホテルを全館貸し切り、災害対策本部、避難所(小学校と想定・エリアを4分割)、さらに被災住宅等を設置し、全館停電状態で訓練を実施しました。

この合同訓練には、奈良市消防団、奈良市消防局をはじめ、災害時こころの情報支援センター、消防団員等公務災害補償等共済基金、DMAT(市立奈良病院)、日赤救護



訓練1:寝たきり高齢者の担架搬送

班、D P A T（9自治体）、奈良市自主防災防犯協議会、奈良市女性防災クラブ連合会、奈良市医師会、奈良市保健所など、計427名が積極的に参加、さらに総務省消防庁、厚生労働省、他市消防団等の消防防災関係者が訓練を視察しました。

訓練Ⅰ 避難誘導訓練（2月9日（月）設定）

ホテルの居室を住宅地、ホテルの広間を観光地と仮想し、計20名の被災者の避難誘導を実施しました。その内の事例として、要介護高齢者2名の車いす搬送、寝たきり高齢者2名の担架搬送、避難誘導を拒否する認知症高齢者の対応を行いました。

訓練Ⅱ 避難所対応訓練（2月10日（火）設定）

避難誘導を終えた消防団員30名は、奈良市自主防災防犯協議会と連携し避難所の被災者110名の対応にあたりました。

その後、消防団はD M A T、救急隊と連携し、負傷者の救護を行い、救急隊の搬送協力を実施しました。さらに消防団はD P A Tと連携し、被災者に対して心理的応急処置（P F A）を開始しました。その後、要援護者リストを作成し、避難所責任者、保健師らへ報告しました。また、訓練では、奈良市消防団長等による市災害対策本部及び避難所本部を設置する訓練も同時に行いました。

訓練終了後には、参加者全員による「ふりかえり」を実施し、訓練で気付いた課題について各団体から報告があり、今後の訓練で再度検証していくこととなりました。



訓練Ⅱ：医療本部で避難所内の被災者の情報を共有



外国人観光客に対する対応

4 おわりに

3月14日には、「訓練検証会」を開催しました。

訓練Ⅰの検証では、避難誘導を拒否する被災者への対応が議論となりました。现阶段では、消防団、自主防災防犯組織等で把握した要保護者情報について、医療支援機関と共有することは想定されていないため、今後課題であるとの意見が挙げられました。

訓練Ⅱでは、消防団員間の情報共有がないまま、複数の団員が同じ対応を繰り返す事があったり、各消防団から消防団統括に情報は挙がってきたものの、情報を整理できなかった。また、各機関の各組織がどのような指揮命令系統で活動をしているか共有されていなかった等、「情報の共有」が課題となりました。まずは現場でのブリーフィングを行うことが必要だったとの結論に達しました。

訓練の目的でもありました“災害時における連携を目標として消防関係者と医療関係者との顔の見える関係をつくる”という所期の目的は、多数の関係者のご参加を得る事ができ、達成できたと感じています。今後も、他組織と現場で効率的に連携できるノウハウを蓄積することが必要であり、継続的に訓練を実施していきます。

【問合せ先】 奈良市消防局総務課